

細胞マーカーを発現していた。

考察：iPS- MSC は骨芽細胞、脂肪細胞、軟骨芽細胞に効率よく分化することから様々な組織再生に応用できると考えられた。また iPS- MSC は移植しても腫瘍を作らず骨再生に寄与することから、安全性の高いものであると考えられた。

結論：iPS- MSC から分化させた MSC は、顎骨再生に対して有用な細胞ソースとなることが明らかになった。

2. エプーリスに生じた扁平上皮癌の 1 例

A clinical report : squamous cell carcinoma happened in epulis

○小原 瑞貴, 宮本 郁也, 阿部 亮輔,
高橋美香子, 山谷 元気, 武田 啓,
武田 泰典*, 山田 浩之

岩手医科大学口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野, 岩手医科大学口腔顎顔面再建学講座臨床病理学分野*

【緒言】：エプーリスは肉肉歯槽部に生じた良性の限局性の腫瘍に対する臨床的な総称であり、多くは炎症性あるいは反応性の増殖物である。エプーリスは日常臨床で遭遇することのある病変だが、二次的に悪性腫瘍が生じたとする報告はわれわれが渉猟した限り認められなかった。今回われわれは、エプーリス頸部から生じた極めてまれな扁平上皮癌の 1 例を経験したので報告する。

【症例】：91 歳女性。近在歯科より左側下顎歯肉部の腫瘍の精査依頼で当科を受診した。患者は特別養護老人ホームに入所中で、腫瘍の発生時期は判然としなかった。左側下顎前歯部歯肉に 15 × 10mm 大の表面はまだら状の発赤を伴った粘膜色、弾性軟、有茎性の腫瘍を認めた。腫瘍部に歯は認められなかった。上顎は部分床義歯、下顎は全部床義歯を使用していた。

【処置および経過】：エプーリスの臨床診断のもと、切除生検を施行した。病理組織検査の結果、エプーリスの頸部粘膜上皮から生じた高分化から中分化型扁平上皮癌を認めた。扁平上皮癌の診断を受けて精査を行ったが、転移等は認めら

れなかった。切除生検の検体切除断端に悪性所見を認めたため、追加切除施行。十分な安全域を設け、周囲粘膜および下顎辺縁切除術を施行した。術後 4 か月経過したが、経過良好で、現在特に問題を認めていない。

【考察】：本例は、エプーリスの頸部粘膜上皮より生じた扁平上皮癌であった。口腔内扁平上皮癌の発生機序として、慢性刺激等の物理的因子、喫煙やアルコール等の化学的因子、そして乳頭腫ウイルス等の生物学的因子が挙げられ、本例の場合、エプーリス頸部が不潔域であり、機械的刺激をはじめとする応力などが関わったことが考えられた。

3. ベトナム社会主義共和国における口唇口蓋裂診療派遣事業

Cleft Lip and palate medical treatment dispatch business in the Socialist Republic of Viet Nam

○大橋 祐生, 飯島 伸, 角田 耕一*,
角田 直子, 山田 浩之

岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野, 奥州市国民健康保険まごころ病院歯科口腔外科*

【緒言】NPO 法人 日本口唇口蓋裂協会（以下、口唇口蓋裂協会）が中心となって行っている海外医療援助活動に参加したので、その概要を報告した。

【概要】口唇口蓋裂協会は、1992 年からベトナム社会主義共和国（以下、ベトナム）にて口唇口蓋裂の医療援助活動として無償手術や診療を行っている。これまでに 1,200 人を超す医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、言語聴覚士、医学生、歯学生をはじめとするボランティアが参加してきた。

ベトナムの人口は 9,720 万人で、面積は日本とほぼ同じく 329,241㎡である。ホーチミンなどの主要都市は近代化が目覚ましいが、医療援助の活動拠点となっているベンチェ省は、住宅や道路整備が未だ不十分で、ジャングルの中で生活している人も多数見られ、主要都市との格差が広がっている。また、ベンチェ省やその周

辺の地域は、ベトナム戦争で使用された枯葉剤の影響で、口唇口蓋裂を含む先天性奇形が多く見られるといわれており、口唇口蓋裂が未治療のまま成人している人がしばしばみられる。口唇口蓋裂協会によってベトナムへの口唇口蓋裂手術の技術移転も行われているが、口腔外科医、形成外科医は不足しているのが現状である。

毎年 12 月末に行われる本活動は、40 人程の日本人スタッフが全国から参加する。現地に集合した医療スタッフは、口唇口蓋裂の無償手術を行い、これまでに手術を行った患者の自宅訪問や、障害児施設の訪問を行っている。また、医師、歯科医師、看護師で構成される手術チームが一丸となって、40 例ほどの手術を行い、歯科衛生士が周術期の口腔ケアを行っている。このように一期一会に集結した医療スタッフ全員がお互いに協力し合い、全力で診療に当たる。

この活動は何事にも代えがたい達成感があり、改めて医療の原点を考え直す機会にもなり、自分が感じたことも踏まえながら活動内容を紹介した。

4. 口腔外科手術における実物大臓器立体モデルの臨床的有用性

Clinical utility of three-dimensional models for simulated surgery in oral surgery operation.

○小野寺 慧, 宮本 郁也, 飯島 伸,
角田 直子, 齋藤 大嗣, 阿部 亮輔,
佐々木信英*, 藤原 尚樹*, 藤村 朗*,
山田 浩之

岩手医科大学口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野, 岩手医科大学解剖学講座機能形態学分野*

【緒言】三次元プリンターで作製した実物大臓器立体モデル（以下：3D モデル）は、各分野において使用されており、その有用性が報告されている。歯科領域では、補綴・インプラント治療や歯科技工作製などに応用されている。今回われわれは、口腔外科手術において、3D モデルによる術前シミュレーションを行い、その臨床的有用性を検討した。

【対象と方法】2016 年 1 月から 2018 年 5 月の

間に 3D モデルを用いた 28 例を対象として、術前シミュレーションの臨床的有用性を評価した。平均年齢は 48.4 歳、男性 10 人、女性 18 人であった。疾患別には、顎変形症 13 例、腫瘍 13 例、外傷 2 例に 3D モデルを用いた。手術までの流れは、術前に CT 検査を行った後、術前シミュレーションを行い、問題点などを把握した上で手術の計画を行った。術前シミュレーションは、CT の DICOM (digital imaging and communications in medicine) データから必要な領域を抽出して、STL (stereolithography) 形式などの造形データに変換した。その造形データ上で、シミュレーションを行った後に、その造形データをもとに 3D モデルを作製した。3D モデルが完成したならば、さらにモデル上でシミュレーションを行った。

【結果】3D モデルは、顎変形症では顎骨移動量と移動方向および骨の干渉部位の評価に有用であった。悪性腫瘍では、再建顎骨の形態や再建に要する採骨量を予測と採骨された骨を支えるチタンメッシュトレイの作製に有用であった。また、顎骨骨折では、術前に金属プレートを顎骨形態に合わせて屈曲することで手術時間の短縮に繋がった。

【考察】3D モデルにより従来、術者の経験に頼っていた手術手技を、術前に十分に時間をかけてシミュレーションが可能となった。複雑な顎顔面の 3 次元構造を視覚的に把握できることからより精度の高い手術を施行することができた。術前シミュレーションは口腔外科領域の手術において有用性が高く、積極的に導入する必要があると考えられた。

5. 全国歯学部における遺伝子診断実施状況のアンケート調査

○三上俊成

岩手医科大学病理学講座病態解析学分野

目的：日本臨床口腔病理学会と日本口腔検査学会は日本歯科医学会の平成 28 年度プロジェクト研究 B において、「歯科における遺伝子検査のためのゲノム病理の確立」をテーマに 6 大学合同研究を行った。その中で、全国の歯学部を対象とした「全国歯学部における遺伝子検査の